



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                                 |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | ベラルーシ語におけるHAVE動詞 м е ц ь : 譲渡不可能所有を中心に                                                          |
| Author(s)        | 孫, 拓未                                                                                           |
| Citation         | 研究論集, 25, 103 (左) -128 (左)                                                                      |
| Issue Date       | 2026-01-16                                                                                      |
| DOI              | <a href="https://doi.org/10.14943/rjgshhs.25.l103">https://doi.org/10.14943/rjgshhs.25.l103</a> |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/98766">https://hdl.handle.net/2115/98766</a>               |
| Type             | departmental bulletin paper                                                                     |
| File Information | 09_rjgshhs_25_p103-128_l.pdf                                                                    |



# ベラルーシ語における HAVE 動詞 *мець* — 譲渡不可能所有を中心に —<sup>1</sup>

孫 拓 未

## 要 旨

本論文の目的は、先行研究によって十分に分析されていなかったベラルーシ語の HAVE 動詞 *мець* による譲渡不可能所有について、コーパスから採集した言語データを分析・考察することである。従来の先行研究では、HAVE 動詞 *мець* がどのような状況において使用されるのかについてを論じたものが多数であり、譲渡不可能所有に焦点を置いたものは少なかった。そして、本論文では HAVE 動詞 *мець* について次の 2 点を明らかにした。(i) 親族名称では、卑属>結婚相手>兄弟姉妹>尊属の順に *мець* と共起しにくくなるということを明らかにした (ii) さらに、譲渡不可能所有全体では、HAVE 動詞 *мець* が共起する可能性は、親族名称>身体部位>家畜>属性の順に弱まることを明らかにした。

## 1. はじめに

### 1.1 研究の背景

ベラルーシではベラルーシ語とロシア語の両言語が国家語として認められている。2019 年に行われたベラルーシの国勢調査によると、家庭内でベラルーシ語を使用している人は約 240 万人に対し、ロシア語を用いていると回答した人は 670 万人であった（全人口約 940 万人）。また、ベラルーシ語は UNESCO によって危機言語と認定されている（清沢 2012: 75）。

<sup>1</sup> 本論文におけるグロスの略号とその定義は以下の通りである。

1 : 1 人称, 2 : 2 人称, 3 : 3 人称, ACC : 対格, DAT : 与格, F : 女性形, GEN : 属格, LOC : 前置格, M : 男性形, N : 中性形, NOM : 主格, PART : 助詞, PL : 複数形, PRS : 現在形, PST : 過去形, SG : 単数形

ベラルーシ語において叙述所有表現を表す構文は 2 つある。それは HAVE 動詞 *мець* による構文（以下 HAVE 所有構文）と、BE 動詞 *быць* による構文（以下 BE 所有構文）である。以下の例文（1）が HAVE 所有構文であり、例文（2）が BE 所有構文である。

ベラルーシ語：

- (1) Ён мае машыну.  
 he.SG.NOM have.3SG.PRS car.F.SG.ACC  
 「彼には車がある。」(Кравицкий et. al 1990: 312)

- (2) У яго ёсць кніга.  
 at he.SG.GEN be.PRS book.F.SG.NOM  
 「彼には本がある。」(Кравицкий et. al 1990: 310)

周辺に位置しているロシア語やポーランド語を見てみよう。これらの言語においても叙述所有表現に使用される動詞として BE 動詞と HAVE 動詞はあるものの、たいていはそのうちの一つのみが主に使用されている。ロシア語においては BE 所有構文が、ポーランド語においては HAVE 所有構文が主に使用される。

ロシア語：

- (3) У меня есть машина  
 at I.SG.GEN be.PRS car.F.SG.NOM  
 「私には車がある。」(Danylenko 2009: 1)

ポーランド語：

- (4) Ta osoba ma brodę.  
 that.SG.NOM person.SG.NOM have.3SG.PRS beard.F.SG.ACC  
 「その人には髭がある」(森田 2022: 150)

表す意味が同じで、異なる 2 つの言語形式を有していることは、言語の経済性という観点からみれば奇妙な現象であると言わざるを得ない。スラヴ諸語における所有表現の古典的研究である Mrázek (1973) や Isačenko (1974: 44) では、ベラルーシ語 (Isačenko はこれ以外にも、ウクライナ語とポーランド語も加えている) を、BE 言語から HAVE 言語に移行している可能性がある」と指摘している。また、スラヴ諸語における BE 動詞と HAVE 動詞の文法化に関する論考を著した Danylenko (2009) によると、言語類型論的にベラルーシ語とウクライナ語は BE 動

詞と HAVE 動詞が併存している言語であるという。

しかし、近年の研究では、BE 所有構文と HAVE 所有構文の間に差があることが明らかになった。特に、4 章にて詳述する Mazzitelli (2012) の研究が代表的である。Mazzitelli (2012) は、ベラルーシ語の HAVE 動詞 *мець* を体系的に分析している。ベラルーシ語における叙述所有表現の研究が進んだこともあり、Mrázek (1973) や Isačenko (1974) などの古典的な研究を見直すきっかけとなると思われる。

## 1.2 研究の目的

本論文は、どのような譲渡不可能所有が、HAVE 動詞 *мець* の目的語となることができるのかについて、主にコーパスから採集した例文をもとにして計量的な分析を行うことが目的である。

Mazzitelli (2012) では、ベラルーシ語の HAVE 動詞 *мець* の用法を仔細に分析していると言える。しかし、譲渡不可能所有については、詳細に立ち入った議論は行われていない。特に譲渡不可能所有は、所有表現のプロトタイプとみなされている (cf. Heine 1997, Langacker 1995 etc.)。

このテーマを論じるにあたって、初めに譲渡不可能所有や叙述所有に関する問題を見ていく。その後、Mazzitelli (2012) などのベラルーシ語における HAVE 動詞についての先行研究について論じる。

さらにベラルーシ語には2つの言語規範が存在する。一つは公式規範であり、もう一つはタラシケヴィチ規範である。前者の公式規範はソ連時代を通じて確立され、ベラルーシの公的領域や学校教育などで用いられる。一方でタラシケヴィチ規範は一部のベラルーシ語メディアや民族意識の高いベラルーシ語話者の間で用いられる (清沢 2021 : 2)。本論文では公式規範によって書かれたテキストを対象としたコーパスを使用して調査を行った。

## 2. 叙述所有と譲渡不可能所有

### 2.1 HAVE 型叙述所有について

叙述所有は、動詞的所有とも呼ばれる。名称が示しているように、動詞を用いて所有を表現する形式である。これとは別に、限定所有が存在するが、こちらは名詞句の内部で所有を表現するものである (Heine 1997: 25-26)。意味的には、限定所有は所有されていることが前提条件として立っているが、叙述所有は所有そのものに焦点を置いているところに違いがある。本論文のテーマは叙述所有である。

叙述所有構文にはさまざまなパターンが見られる。英語やドイツ語など、ヨーロッパの諸言語でよく見られる HAVE 構文や、ロシア語やトルコ語などで見られる BE 構文などがある。

Heine (1997) や Stassen (2009) などの研究は、世界の言語における叙述所有構文を仔細に分類している。前者は認知言語学に基づいた考察で叙述所有構文を8つに分類し、後者は構文的特徴によって4つに分類している。ここでは HAVE 所有構文以外の構文は詳細に述べることはせず、Heine (1997) と Stassen (2009) の HAVE 構文についての論考を比較していきたい。

Heine (1997) によると、所有表現は何をするのか (Action)、どこにあるのか (Location)、誰といるのか (Accompaniment)、何が存在するのか (Existence) に関する基本的な経験に関係しているという (Heine 1997: 45)。これらに基づき、以下の表1に示されている8つのイベントスキーマが区別される。

表1 Heine による叙述所有表現の8つのスキーマ

| 叙述所有構文の形式           | スキーマの名称        |
|---------------------|----------------|
| X takes Y           | Action (行為)    |
| Y is located at X   | Location (位置)  |
| X is with Y         | Companion (随伴) |
| X's Y exists        | Genitive (属格)  |
| Y exists for/to X   | Goal (着点)      |
| Y exists from X     | Source (起点)    |
| As for X, Y exists  | Topic (主題)     |
| Y is X's (property) | Equation (等式)  |

Heine (1997: 47) の表を一部改変

この表の中で、Action (行為) スキーマが、一般に言及される HAVE 所有構文であり、Location (位置) スキーマが、BE 所有構文である。HAVE 所有構文の述語動詞は、ゲルマン諸語やイタリック諸語などでは、「掴む」や「取る」といった動詞から派生したケースが多いという (Heine 1997: 50)。

一方、Stassen (2009) は世界の言語に見られる所有構文は4つに還元<sup>2</sup>できると指摘しており、その一つに HAVE 所有構文 (HAVE-Possessive) が認められている。特に Stassen (2009) は、所有者と所有対象の文法的機能によるコード化のみが所有構文の分類基準であるとしている。ここでは紙幅の都合上、HAVE 所有構文のみを取り扱う。Stassen (2009: 62) によると、HAVE 構文は他の所有構文とは異なり、他動詞構文を形成する。所有者が主語となって、所有

<sup>2</sup> Stassen (2009) の4つの分類は以下の通りである。

- (i) 場所的所有 (Locational Possessive)
- (ii) 随伴的所有 (With Possessive)
- (iii) 主題的所有 (Topic Possessive)
- (vi) HAVE 所有 (Have-Possessive)

対象が HAVE 動詞の目的語となって現れる。

## 2.2 譲渡不可能所有について

数ある所有カテゴリーの中でも、譲渡不可能所有はプロトタイプの位置を占めている (cf. Heine 1997, Langacker 1995 etc.)。Nichols (1988: 568) によると、譲渡不可能所有とは生得的で、生まれながらにして持っているものである。一方でその対になる概念である譲渡可能所有は、所有権に関わることであり、社会的や経済的に付与されるものである (Nichols 1988: 568)。日本語の所有動詞について研究した角田 (2009) も、上記と同じような解釈を行っている。所有表現について全般的な研究を行なった Heine (1997) は、譲渡不可能所有には、(1) 親族関係、(2) 身体部位、(3) 空間的な概念、(4) 物体の一部分 (全体部分の関係)、(5) 属性や精神的状態、(6) 名詞句 (限定所有句) が含まれていると指摘している。

また、Nichols (1988: 572) は言語によって譲渡不可能所有・譲渡可能所有が異なることにも言及している。そして、(1) 親族名称や身体部位、(2) 全体部分関係や空間関係、(3) 文化的基本所有物 (家畜など) の順に譲渡不可能性が弱まることを指摘している。しかし、一部の言語では身体部位は譲渡不可能所有に含まれないなど、それぞれの言語においてその解釈に若干の違いが見られることも示唆している。

また、角田 (2009) では譲渡不可能性階層が示されている。その階層によると、身体部分 > 属性 > 衣類 > (親族) > 愛玩動物 > 作品 > その他の所有物の順に譲渡不可能性が弱まることを指摘している。しかし、角田 (2009: 128-129) が述べている通り、この所有傾斜は絶対的なものではなく、言語によって修正することが妥当な場合がある。

ここで、本論文で分析する譲渡不可能所有について示す。本論文では、Nichols (1988) や角田 (2009) などの先行研究を踏まえ、親族名称、身体部位、家畜並びに属性を調査対象とする。

## 3. ベラルーシ語の HAVE 動詞 *мечь* について

ベラルーシ語の所有表現を体系的に研究した論考は、Mazzitelli (2012) を除くと少ない。特にベラルーシ語の教科書の一部分に所有表現に言及したものが多少あるのみである。ここでは、ベラルーシ語の教科書における言及と、Mazzitelli (2012) を概観し、ベラルーシ語の HAVE 動詞 *мечь* について見ていく。

なお、HAVE 動詞 *мечь* の議論から少しそれるが、ベラルーシ語の BE 所有構文についても触れておこう。BE 所有構文では、BE 動詞を入れる場合と入れない場合があり、その両者は意味論的に重要な区別がある<sup>3</sup>。BE 動詞を入れない場合は、所有の事実を強調せず、所有対象に焦

<sup>3</sup> 例えば、例文 (A) は「私には青い目をしていないという事実はなく、確かに青い目をしている」と

点が置かれる。一方で BE 動詞を入れる場合には、所有の事実そのものに焦点が当てられる (Mazzitelli 2012: 104)。また、Мразек (1990: 45) によると、東スラヴ諸語の現在時制では、所有の事実がコミュニケーションの中心になる場合は、BE 動詞が常に現れるという。つまり、ベラルーシ語の所有構文では、BE 所有構文では BE 動詞を明示するか、しないかについての選択を行うことができる。一方で HAVE 所有構文は、BE 所有構文のように動詞を省略することはできない。従って、BE 所有構文で表現可能な対立—所有の事実—に焦点を置くか、所有対象に焦点を置くか—が表現できないということも指摘しなければならない。

### 3.1 ベラルーシ語の教科書における *мець* の記述

ここではベラルーシ語の教科書として、Кравицкий et al. (1990, 1994) を取り上げる。これらは全て公式規範に依拠したものである。

Кравицкий et al. (1990) は、ロシア語話者を対象としたベラルーシ語の教科書であり、ロシア語との対照を随所に取り入れている。Кравицкий et al. (1990) では主に BE 所有構文における BE 動詞 *ёсць* の省略に割かれている分量が多いが、HAVE 所有構文と BE 所有構文との比較も記述されている。*мець* が許容されるのは、譲渡可能な抽象名詞と、譲渡可能な具体的名詞および譲渡不可能な抽象名詞であると指摘している (Кравицкий et al. 1990: 311-312)。しかし、譲渡不可能な抽象名詞と譲渡可能な抽象名詞の定義が曖昧であると言わざるを得ない。

Кравицкий et al. (1994) もロシア語で著されたベラルーシ語の教科書であるが、その一節にベラルーシ語の譲渡不可能所有について言及された箇所がある。そこでは、ベラルーシ語の BE 所有構文と HAVE 所有構文を対照する形で記述されている。それによると、ベラルーシ語において、譲渡不可能な名詞を HAVE 所有構文で表すことは不可能であると論じている (Кравицкий et al. 1994: 219)。

しかし、Кравицкий et al. (1990: 311-312, 1994: 219) の一連の教科書は、HAVE 所有構文と BE 所有構文の違いを最低限のレベルで論じているに過ぎない。このような記述を行う背景として、ロシア語にはこのような使い分けが存在していないことが原因であると思われる。しかし、実証的な検証を経て論じられているわけではなく、あくまでもロシア語話者にとって、BE

---

いうように、所有の事実を強調している。一方で例文 (B) は、所有の事実ではなく、所有対象に焦点が当てられている (Mazzitelli 2012: 104)。

(A) У мяне ёсць сінія вочы.  
at I.SG.GEN be.PRS blue.PL.NOM eye.PL.NOM  
「私には青い目がある。」 (Mazzitelli 2012: 104)

(B) У мяне сінія вочы.  
at I.SG.GEN blue.PL.NOM eye.PL.NOM  
「私には青い目がある。」 (Mazzitelli 2012: 104)

所有構文と HAVE 所有構文には差があることを記述しているに過ぎない。これは、教科書という性質上、致し方ないように思われる。

### 3.2 Mazzitelli (2012) の調査<sup>4</sup>

Mazzitelli (2012) は、ベラルーシ語およびリトアニア語の叙述所有表現を比較・対照した論考である。そしてこの論考では、Heine (1997) にて提唱されている所有スキーマや所有カテゴリーをベースとして、譲渡不可能名詞のほか、ベラルーシ語の HAVE 動詞 *мець* に関する仔細な分析を行っている<sup>5</sup>。

ベラルーシ語では、Heine (1997) の言う「譲渡不可能所有」のうち、(i) 親族名称や社会的関係を表す場合と、(ii) 身体部位を表す場合が、HAVE 動詞 *мець* によって表現が可能となる。なお、Mazzitelli (2012) では (ii) 身体部位のみを譲渡不可能所有として扱っており、親族名称を譲渡不可能所有とは扱っておらず、社会的所有という別の概念を立てて論じている。

ここでは、Mazzitelli (2012) の行ったベラルーシ語の HAVE 動詞 *мець* の研究うち、譲渡不可能所有の範囲に絞ってその用法をみていく。

#### 3.2.1 *мець* の使用が許容される場合

##### (i) 人物を表す場合

Mazzitelli (2012) は、人物の「所有」を社会的所有 (Social Possession) としている<sup>6</sup>。先に論じたように、Кравицкий et al. (1994) では人間を所有する場合には HAVE 動詞 *мець* は使用できないと述べたが、Mazzitelli (2012: 85) では母語話者の協力を経て、人間を表す語が *мець* の目的語となる文は容認可能であると結論づけている。

|                         |                   |              |              |
|-------------------------|-------------------|--------------|--------------|
| (5) Цяпер               | Наста             | працуе       | ў            |
| now                     | Nasta.F.SGNOM     | work.3SG.PRS | in           |
| рэкламным               | бізнэсе           | i            | мае          |
| advertising.M.SG.LOC    | business.M.SG.LOC | and          | have.3SG.PRS |
| трохгадовага            | сына.             |              |              |
| three-year-old.M.SG.ACC | son.M.SG.ACC      |              |              |

<sup>4</sup> Mazzitelli (2012) では、ベラルーシ語の例文は全てラテン文字に転写される形式で表されている。本論文では、Mazzitelli (2012) に掲載されている例文を引用する場合は全てキリル文字で表記することとする。

<sup>5</sup> Mazzitelli (2012) は、コーパスによる調査やアンケート調査によって例文を収集している。

<sup>6</sup> しかし、Mazzitelli (2012: 85) は、社会的所有の全てを譲渡不可能所有であるとは考えていないようである。

「今ナスタは広告業で働いていて 3 歳の息子がいる。」(Mazzitelli 2012: 85)

- (6) Ёсць жа яшчэ горшыя за мяне. [...]  
 be.PRS PART even worse.PL.NOM for I.SG.GEN  
 Палюбоўніц маюць і не па адной.  
 lover.PL.ACC have.3PL.PRS and not by one.F.SG.LOC

「私よりもっとひどい人がある [...] 彼らには恋人がいるが 1 人だけではない。」  
 (Mazzitelli 2012: 85)

Mazzitelli (2012) の調査では親族名称 (Mazzitelli (2012) の用語に従えば *Inalienable Social Possession*) を調査しているものの、どのような親族名称を調査したのかが明確になっていない。例文では「息子」と「恋人」しか挙げられておらず、「息子」の一例だけで判断することは困難であると言える<sup>7</sup>。

(ii) 身体部位を表す場合<sup>8</sup>

ベラルーシ語の HAVE 動詞 *мець* は、主語の身体的特徴を示すために使用することは難しい。だが、所有関係が前提ではない場合には使用される。例文 (7) ではラズミアン人 (宇宙人) の身体描写を表しているが、ここでも HAVE 動詞 *мець* が出現している。以下の例文の場合は所有が前提となっていない。

- (7) Ён уважліва азірнуў разумян. Яны  
 he.SG.NOM attentively.ADV look.SG.PST Razumian.PL.ACC they.NOM  
 мелі доўгія цыліндрычныя тулавы, тонкія  
 have.PL.PST long.PL.ACC cylindrical.PL.ACC trunk.PL.ACC thin.PL.ACC  
 кароткія рукі і ногі.  
 short.PL.ACC arm.PL.ACC and leg.PL.ACC

「彼はラズミアン人を注意深く観察した。彼らは長い円筒形の胴体と細く短い腕と脚があった。」(Mazzitelli 2012: 86)

<sup>7</sup> ベラルーシ語と系統的に近いロシア語の HAVE 動詞 *иметь* の研究 (田中 2024) において、息子を表すロシア語の *сын* は、親族名称の中でも譲渡可能性が高い語とみなされている。

<sup>8</sup> 特定のグループに対する身体描写を表す際にも、HAVE 動詞 *мець* が用いられる。これは一般的な特徴を述べているだけに過ぎず、具体的な人物の身体特徴を描写していないと Mazzitelli (2012: 149) は推測している。

しかし、母語話者によると以下の例文（8）は容認可能であると示している。ただし、これは一時的な性質よりも、永続的に認められる特徴を表す場合である。泣いて、青い目が<sup>3</sup>一時的に赤くなっている場合に（9）のような HAVE 所有構文を使用すると、容認度は低下すると Mazzitelli は主張している。

- (8) Ён            мае            сінія            вочы.  
 he.SG.NOM   have.3SG.PRS   blue.PL.ACC   eye.PL.ACC  
 「彼は青い目をしている。」(Mazzitelli 2012: 86)

- (9) ?Ён            мае            чырвоныя    вочы.  
 he.SG.NOM   have.3SG.PRS   red.PL.ACC   eye.PL.ACC  
 「彼は赤い目をしている。」(Mazzitelli 2012: 86)

### 3.2.2 *мець* の使用が許容されない場合

#### (i) 病気を表す場合

HAVE 動詞 *мець* は、病気を患っていることを表す時には用いられず、BE 所有構文によって表される。なお、BE 所有構文である (10b) では、BE 動詞が省略されている。

- (10a) \*Ян            мае            грып.  
 Jan.M.SG.NOM   have.3SG.PRS   flu.M.SG.ACC
- (10b) У            Яна            грып.  
 at            Jan.M.SG.GEN   flu.M.SG.NOM  
 「ヤンはインフルエンザである。」(Mazzitelli 2012: 148)

ただし、以下の例文（11）のように、病気の症状を描写する際は、HAVE 動詞が許容される。

- (11) Ян            мае            высокую    тэмпературу    ды  
 Jan.M.SG.NOM   have.3SG.PRS   high.F.SG.ACC   fever.F.SG.ACC   and  
 іншыя            сымптомы            грыпа.  
 other.PL.ACC   symptom.PL.ACC   ful.M.SG.GEN  
 「ヤンは高熱とインフルエンザの症状がでている。」(Mazzitelli 2012: 148)

## (ii) 感情を表す場合

感情や心理社会的な状況を表す語彙—不幸や幸福、郷愁などの語—は HAVE 所有構文によって表現することはできない。これらを所有する場合は BE 所有構文によって表される。なお、BE 所有構文である (12b) では、BE 動詞が省略されている。

(12a) \*Я                    маю                    бяду.  
I.SG.NOM   have.1SG.PRS   misfortune.F.SG.ACC

(12b) У                    мяне                    бяда.  
at                    I.SG.GEN           misfortune.F.SG.ACC  
「私は不幸である。」(Mazzitelli 2012: 148)

## (iii) 所有者（主語）の身体的特徴を描写する場合

所有者（主語）の身体的特徴を描写する際に HAVE 動詞 мець の使用を嫌う母語話者がいたことが、Mazzitelli (2012: 148) の調査で判明している（例文 13）。

(13) ?Ён                    меў                    маладыя                    і                    добрыя                    вочы.  
he.SG.NOM   have.M.SG.PST   young.PL.ACC   and   good.PL.ACC   eye.PL.ACC  
「彼は若くて良い目をしている。」(Mazzitelli 2012: 148)

3.2.1 の (ii) において、HAVE 動詞 мець は所有が前提となっていない状況下において、身体部位が мець の目的語となることができると述べた。しかし、所有者の身体的特徴の描写と、所有が前提となっていない場合の区別を本論文で行うことは難しいと考えている。

## 3.3 まとめ

ここまで、ベラルーシ語における HAVE 動詞 мець の用法を詳しくみてきた。本論文では譲渡不可能所有を扱うものなので、譲渡可能所有における мець の用法に踏み入ることはしなかった。本章では主にКравицкий et al. (1990, 1994) と Mazzitelli (2012) による論を参考に мець の用法を記した。Mazzitelli (2012) における体系的な調査の結果、概ね以下の状況において мець が使用できると結論づけることができる。なお、以下の表における○は完全に使用できることを意味し、△は文法的には正しいが通常は使わない表現であり、×は非文を表している。

表 2 HAVE 動詞 мець が表現できる譲渡不可能所有

| 所有の種類 |                              | 可否 |
|-------|------------------------------|----|
| 社会的関係 |                              | ○  |
| 抽象的所有 | 病気                           | ×  |
|       | 感情                           | ×  |
| 身体部位  | 身体的特徴を描写を表す場合                | △  |
|       | 所有前提がない場合                    | ○  |
|       | 一時的な状況を表す（例文 9） <sup>9</sup> | △  |
|       | 永続的な性質を表す                    | ○  |

この表から読み取れることは、HAVE 動詞 мець は身体部位を所有する場合には制約が多いということである。Кравичкий et al. (1990, 1994) は、身体部位を所有する場合には HAVE 動詞 мець は用いられないと論じていたが、これは教科書の性質上、初学者に混乱を与えないためにあえて上記のような記述にとどめたとも考えられる。

Mazzitelli (2012) は、親族名称が HAVE 動詞 мець の目的語となり得ることを論じているが、調査対象となった親族名称がどのようなものであるかを明確に示していない。これは、身体部位にも同様のことが言える。例えば、親族名称を考察している例文（5）では「息子」が現れているが、その他の親族名称である「父」や「母」などといった親族名称の状況が判然としない。本論文では、4 章各節の冒頭で調査した名詞の一覧を掲載し、その調査に基づいた詳細な分析を行うこととする。

#### 4. 譲渡不可能所有の分析

本章では、コーパスを用いてベラルーシ語の譲渡不可能所有の分析を行う。ベラルーシ語の所有表現について総合的に論じた Mazzitelli (2012) では、譲渡不可能所有にあまり重点をおいていなかった。親族を表す所有表現はもとより、身体部位や家畜を表す所有についての深い考察も、あまりなされていなかった。そのような不足を補うことを目的として、本章ではベラルーシ語における譲渡不可能所有を分析する。なお、ここでは現在形のみに限定して調査を行うものとする。

譲渡不可能名詞をコーパスで調査する上で、筆者は 1) мець + 名詞, 2) мець + 形容詞 + 名詞, 3) мець + 数詞 + 名詞という 3 つの語結合のレベルで調査した。

<sup>9</sup> 「一時的な状況を表す」とは、例えば泣いて目が赤くなっているような状況を指している（例文 9）。

#### 4.1 調査の概要と調査方法

本論文では譲渡不可能所有のうち、身体部位、属性、親族および家畜を対象として調査を行い、計量的な分析も同時に行なった。なお、分析対象となる言語データは、すべてベラルーシ語ナショナルコーパス<sup>10</sup>から収集した。調査する名詞は、各節の冒頭に示されている。

調査した所有構文は全部で371例である。そのうち、親族名称は324例、身体部位は33例、家畜が11例、そして属性が3例であった。その総数に対する割合は図1の棒グラフで示されている。

表3 譲渡不可能所有の区分別の用例数

| 譲渡不可能所有の区分 | 例数  |
|------------|-----|
| 親族名称       | 324 |
| 身体部位       | 33  |
| 家畜         | 11  |
| 属性         | 3   |
| 総数         | 371 |

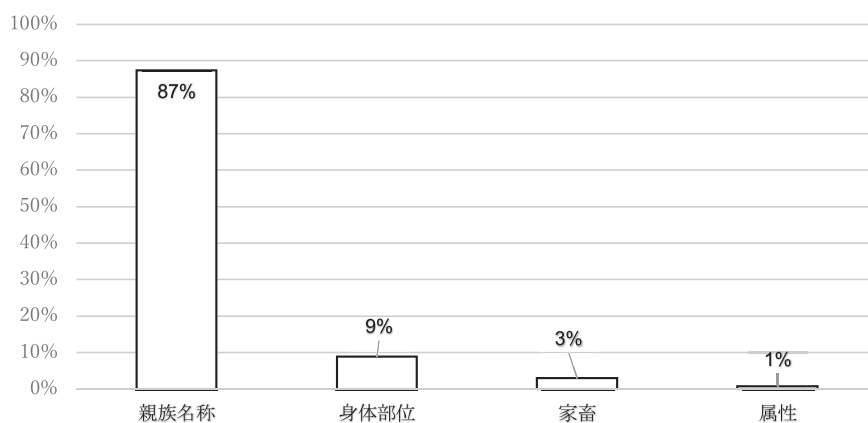


図1 譲渡不可能所有の用例数の割合

#### 4.2 親族名称の所有を表す場合

ここでは、親族名称を表す語が *мечь* と共起している状況について、コーパスから判明した

<sup>10</sup> ベラルーシ語ナショナルコーパスにはいくつかのサブコーパスが存在するが、今回は web コーパス (Корпус вэб-рэсурсаў) を使用した。web コーパスには、合計1億1200万語収録されている。なお、web コーパスに掲載されているテキストは、ベラルーシ系政府サイト (zviazda.by や tve.by) などから引用されている。

ことを示し、その分析を行う。

表 4 親族名称が *мець* の目的語となっている頻度数

| 日本語         | ベラルーシ語   | 件数(名詞単体)   | 件数(形容詞+名詞) | 件数(数詞+名詞)  | 合計         |
|-------------|----------|------------|------------|------------|------------|
| <b>親族名称</b> |          |            |            |            |            |
| 祖父          | дзед     | 0          | 0          | 0          | 0          |
| 祖母          | баба     | 0          | 0          | 0          | 0          |
| 母           | маці     | 0          | 0          | 0          | 0          |
| 父           | бацька   | 0          | 1          | 0          | 1          |
| 姉・妹         | сястра   | 1          | 1          | 2          | 4          |
| 兄・弟         | брат     | 0          | 1          | 1          | 2          |
| おば          | цётка    | 0          | 0          | 0          | 0          |
| おじ          | дзядзька | 0          | 0          | 0          | 0          |
| 孫(男)        | унук     | 16         | 1          | 19         | 36         |
| 孫(女)        | унучка   | 2          | 1          | 1          | 4          |
| 子供          | дзіця    | 135        | 30         | 57         | 222        |
| 息子          | сын      | 5          | 3          | 15         | 23         |
| 娘           | дачка    | 11         | 3          | 4          | 18         |
| 妻           | жонка    | 5          | 1          | 2          | 8          |
| 夫           | муж      | 6          | 0          | 0          | 6          |
| <b>総数</b>   |          | <b>194</b> | <b>43</b>  | <b>103</b> | <b>324</b> |

調査対象となる 4 つの譲渡不可能所有のうち、親族名称の割合は一番高い結果となっている。その中でも、孫や子供、息子や娘の所有を表す表現が他の親族名称よりも多いことが表 4 からわかる。反対に、祖父、祖母、母、おじやおばといった親族が *мець* の目的語となっている例は見られなかった。しかし、父を表す *бацька* に関しては、例文が 1 件存在した（例文 14）。

- (14) [...] іншая мае заможнага бацьку [...]  
 another.F.SG.NOM have.3SG.PRS wealthy.M.SG.ACC parent.M.SG.ACC  
 「一方には裕福な父親がいる…」(zviazda.by)

祖母や祖父、父や母などの親族名称は、所有者が生まれた時点には既にいることが確実であり、一般的に所有の事実を改めて強調する必要がないと考えられるため、コーパスにおける例数が少ないと思われる。なお、この例文(14)の例では、限定詞が *бацька* を修飾している。

兄弟姉妹を表す語が *мець* の目的語となっている例を見てみよう。

- (15) Досця, дарэчы, мае сястру [...]  
 Doscja.F.SG.NOM by the way have.3SG.PRS sister.F.SG.ACC  
 「ところで、ドースチャには妹がいる…」 (zviazda.by)

- (16) [...] вы маеце паўналетніх брата і  
 you.NOM have.2PL.PRS adult.PL.ACC brother.M.SG.ACC and  
 сястру [...]  
 sister.F.SG.ACC  
 「あなたには成人した兄/弟と姉/妹がいる…」 (zviazda.by)

兄弟姉妹を表す語が *мець* の目的語となっている例は、親族名称全体の中でわずか 6 例しか存在しない。なお、コーパスから最終した言語データのほとんどに限定詞が付されており、その語結合が *мець* の目的語となっているものが大半である。一方、限定詞がついていないものは例文 (15) の 1 例のみであった。

子供や息子、娘、孫などを表す親族名称が *мець* の目的語となっている例の例を見てみよう。

- (17) Мае дачок, унукаў [...]  
 have.3SG.PRS daughter.PL.ACC grandchild.PL.ACC  
 「彼/彼女には娘と孫がいる…」 (zviazda.by)

- (18) [...] жанчыны і адзінокія мужчыны, якія  
 woman.PL.NOM and single.PL.NOM man.PL.NOM who.PL.NOM  
 маюць дзяцей [...]  
 have.3PL.PRS child.PL.ACC  
 「子供がいる独身男性と女性は…」 (zviazda.by)

- (19) Ён [...] мае чатырох дзяцей [...]  
 he.SG.NOM have.3SG.PRS four.N.ACC child.PL.ACC  
 「彼には 4 人の子供がいて…」 (zviazda.by)

- (20) Мае сына, дачку, двух унукаў.  
 have.3SG.PRS son.M.SG.ACC daughter.F.SG.ACC two.M.ACC grandson.PL.ACC  
 「彼/彼女には息子、娘と 2 人の孫がいる。」 (zviazda.by)

子供、息子、娘、孫などを表す親族名称が мець の目的語となっている例は数多く見受けられ、特に子供を表す дзіця に関しては、222 例存在した。これらの親族名称は、父や母、祖父や祖母といった親族とは異なり、所有者が生まれた段階では存在しないといえることができる。

最後に、結婚相手—妻と夫が мець の目的語となっている例を見てみよう。

- (21) Баксёр                      мае                      жонку [...]  
boxer.M.SG.NOM   have.3SG.PRS   wife.F.SG.ACC  
「ボクサーには妻がいる…」 (zviazda.by)

- (22) [...] дзяўчына              ўжо              мае                      мужа                      і              дзіця.  
girl.F.SG.NOM   already   have.3SG.PRS   husband.M.SG.ACC   and   child.N.SG.ACC  
「その女の子にはすでに夫と子供がいる。」 (zviazda.by)

妻や夫を表す親族名称が мець の目的語となっている例は、子供や息子、孫などの例に比べると数は劣るが、合計で 14 例見られた。

上記の調査結果を踏まえ、筆者はベラルーシ語の所有表現の分析に最適な親族分類を提案したい。それは (i) 尊属、(ii) 兄弟姉妹、(iii) 卑属と (iv) 結婚相手である。(i) 尊属とは主語（所有者）よりも年上の親族を指ししめし、(iii) 卑属とは主語（所有者）よりも年下の親族を指し示し、(iv) 結婚相手とは妻や夫を指している。親族の譲渡不可能性について考えると、ここでは (i) 尊属を表す親族名称が一番高いと思われる。そして、譲渡不可能性が比較的低いと考えられるのは、(iii) 卑属や (iv) 結婚相手を表す語であると考えられる。(ii) 兄弟姉妹に関しては、その中間に位置していると思われる。

この親族分類に依拠すると、HAVE 動詞 мець は (iii) 卑属や (iv) 結婚相手など、譲渡不可能性が低い語と共起する可能性が高いことがコーパスによる調査で判明した。4 章で見た Кравицкий et al. (1990, 1994) の議論では、мець の目的語として取ることができるのは、譲渡可能な具体的名詞であり、譲渡不可能な名詞を目的語に取ることとはできないと述べている。実際に譲渡不可能性の高い (i) 卑属が мець の目的語となっている例は少数であり、譲渡不可能性が比較的低いと思われる (iii) 卑属や (iv) 結婚相手に関する語は мець の目的語となる例が (i) 尊属や (ii) 兄弟姉妹よりも多い結果となった。

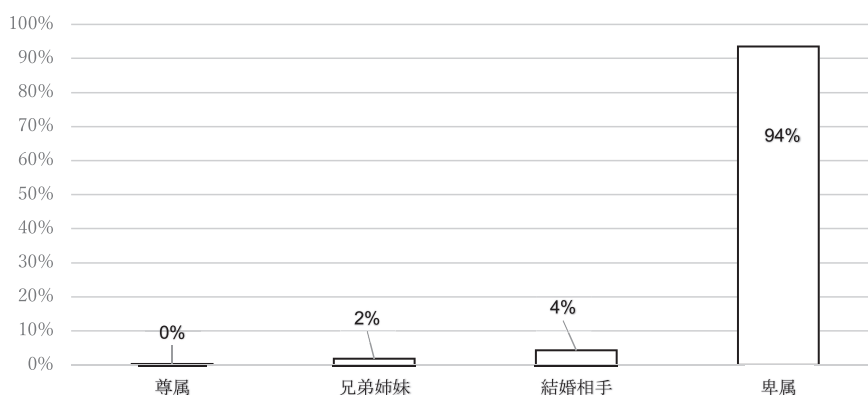


図 2 親族名称が мець の目的語となる割合

先行研究である Mazzitelli (2012) では、親族名称が мець の目的語となっているものについて深い考察などがなされていなかったが、本研究では親族名称が мець の目的語として共起する際に、譲渡不可能性が高くなるにつれて、その動詞の使用可能性が弱まることを示した。

#### 4.3 身体部位を所有する場合

ここでは、身体部位を表す語が мець と共起している状況について、コーパスから判明したことを示し、その分析を行う。

表 5 身体部位が мець の目的語となっている頻度数

| 日本語         | ベラルーシ語 | 件数(名詞単体)  | 件数(形容詞＋名詞) | 件数(数詞＋名詞) | 合計        |
|-------------|--------|-----------|------------|-----------|-----------|
| <b>身体部位</b> |        |           |            |           |           |
| 頭           | галава | 4         | 2          | 1         | 7         |
| 目           | вока   | 3         | 2          | 0         | 5         |
| 鼻           | нос    | 0         | 0          | 0         | 0         |
| 耳           | вуха   | 6         | 0          | 0         | 6         |
| 口           | рот    | 0         | 0          | 1         | 1         |
| 髪の毛         | волас  | 0         | 2          | 0         | 2         |
| 首           | шыя    | 0         | 0          | 0         | 0         |
| 手/腕         | рука   | 2         | 3          | 1         | 6         |
| 足/脚         | нага   | 4         | 2          | 1         | 7         |
| <b>総数</b>   |        | <b>19</b> | <b>11</b>  | <b>4</b>  | <b>34</b> |

身体部位は全体の中で 9 % を占めており、これは親族名称について大きい値である。身体部位の中でも、口と首、乳房に関しては、目的語となっている例は見受けられなかった。これは

おそらく、この2つの所有を描写することが難しいことに起因するものであると言える。

身体部位には、普通所有物と非普通所有物とに分けることができる。前者は先天的に保有していることが明白なものであり、後者は人によって有無が分かれるものを指している（角田 2009：158）。本稿で扱うものは全て普通所有物である。そして、前者の普通所有物は所有されていることが当たり前であるから、通常は形容詞を付けなければ特別な意味を帯びる（角田 2009：163）。ここでは、形容詞や数詞などの限定詞がつく場合と、限定詞がつかず、身体部位が単独で *мець* の目的語となっている場合とに分けて論じようと思う。

#### 4.3.1 形容詞＋身体部位が *мець* の目的語となっている場合

- (23) Чалавек, які мае здаровыя рукі,  
 people.M.SG.NOM who.M.SG.NOM have.3SG.PRS healthy.PL.ACC hand.PL.ACC  
 ногі, галаву [...]  
 leg.PL.ACC head.F.SG.ACC  
 「健康な手、足、頭をしている人は…」 (zvaizda.by)

- (24) Гаспадар мае ўмелыя рукі [...]  
 husband.M.SG.NOM have.3SG.PRS skilled.PL.ACC hand.PL.ACC  
 「主人には器用な腕がある…」 (zviazda.by)

- (25) Калі вы маеце доўгія валасы, [...]  
 if you.PL.NOM have.2PL.PRS long.PL.ACC hear.PL.ACC  
 「もしあなたに長い髪があるのなら…」 (zviazda.by)

「形容詞＋身体部位」が *мець* の目的語となっている例は 11 例であった。以上で挙げた例文は、いずれの場合も単純にどのような手を有しているのか、について描写している。しかし、中には以下のように「形容詞＋身体部位」に比喩的な意味があると思われるものがある。

- (26) [...] для тых, хто мае  
 for those.PL.GEN who.M.SG.NOM have.3SG.PRS  
 духоўныя вочы [...]  
 spiritual.PL.ACC eye.PL.ACC  
 「霊的な目を持つ人のために…」 (zviazda.by)

- (27) [...] але яшчэ маюць светлыя галавы.  
but also have.3PL.PRS bright.PL.ACC head.PL.ACC  
「そしてさらに彼らは明るい頭を持っている。」(zviazda.by)

(26) の духоўныя вочы は霊的な目、つまり真理や精神世界を見通す目のことを指しており、(27) の светлыя галавы は輝いている頭、これは聡明さや賢さを示している。「形容詞＋身体部位」の中で、このような比喩的な用法と思われるものは、11 例中 4 例存在した。このような用法は、所有の前提がないことを念頭に置かねばならない。

#### 4.3.2 数詞＋身体部位が мець の目的語となっている場合

通常、人体に付着している身体部位の数は決まっている。しかし、身体部位が数詞によって修飾される場合、その所有者は、我々人間にとって未知の存在であり、その特徴を描写している可能性がある。例文 (28) の文の主語 ён は、文脈によると粘着質な怪物 ліпучная пачвара を指している。

- (28) [...] ён мае два рот.  
he.SG.NOM have.3SG.PRS two.M.ACC mouth.M.SG.ACC  
「彼には 2 つの口がある。」(zviazda.by)

また、以下の例文 (29) は、文脈によると HERMES はロボットであり、その身体特徴を描写するために「数詞＋身体部位」という語結合が мець の目的語となっている。

- (29) HERMES мае дзве нагі і дзве  
HERMES.SG.NOM have.3SG.PRS two.F.ACC leg.F.PL.ACC and two.F.ACC  
рукі, [...] hand.F.PL.ACC  
「ヘルメスには 2 つの足と 2 つの腕がある…」(zviazda.by)

我々人間にとって未知の存在を描写する際に、数詞＋身体部位の組み合わせが мець の目的語となる可能性があることが、コーパスによる調査によって判明した。

#### 4.3.3 身体部位が単独で мець の目的語となっている場合

身体部位が単独で мець の目的語となっている時は、「мець＋身体部位」という組み合わせが慣用句的に用いられる場合や、未知の生物やロボットなど、動物以外の特徴を描写する際に用

いられていることが、例文から判明した。

- (30) Адметнасць [...] крычаўскай качкі-каня ў  
 distinctiviness.F.SG.NOM kryčau.F.SG.GEN kačka-kanja.F.SG.GEN in  
 тым, што яна мае галаву.  
 that.M.SG.LOC what.NOM she.F.SG.NOM have.3SG.PRS head.F.SG.ACC  
 「クリチャウのカチカ=カニヤの特徴は、それに頭があることである。」(zviazda.by)

- (31) [...] яго нядаўня распрацоўка “МіксБот”  
 his.SG.NOM recent.F.SG.NOM development.F.SG.NOM MiksBot  
 мае галаву, [...] have.3SG.PRS head.F.SG.ACC  
 「彼の最近の開発品の「ミックスボット」には頭があり…」(tvr.by)

(30) では、この世には存在しない動物「カチカ=カニヤ」の特徴を描く際に用いられている。  
 (31) ではロボットが手を持っていることを示している。これらの文は動物の一部分としての  
 身体部位の所有・存在を描写する文ではないため、形容詞がつかなくとも、単純に所有を示し  
 ていることがわかる。このような場合は、身体部位に関しては所有が前提とはなっていないた  
 め、このような言い方が可能である。

しかし、「мець+身体部位」という組み合わせが慣用表現的に用いられる場合や、比喩的に用  
 いられる場合がある。なぜなら、調査した身体部位の全ては普通所有物であり、мецьを加えな  
 くとも初めから所有・存在していることが明確だからである。

- (32) [...] мае галаву на плечах [...] have.3SG.PRS head.F.SG.ACC on shoulder.M.SG.LOC  
 彼には肩に頭がある（＝しっかりとした考えがある）…」(Zviazda.by)

- (33) Сцены маюць вушы і вочы.  
 wall.PL.NOM have.3PL.PRS ear.PL.ACC and eye.PL.ACC  
 「壁は耳と目を持っている（＝壁に耳あり障子に目あり）。」(Zviazda.by)

例文 (32) と (33) は慣用表現の例である。(32) では、мае(不定形 мець) галаву на плечах  
 はロシア語の иметь голову на плечах に相当する表現であり、しっかりした考えを持っている  
 ことを表している。例文 (33) の сцены маюць(不定形 мець) вушы і вочы はロシア語の и у

стен уши есть に相当し、日本語の「壁に耳あり障子に目あり」を意味している慣用句である。

角田（2009：163）では、普通所有物が修飾要素なしで用いられると、特別な意味を持つほか、普通ではないという意味が付されるという。そしてこのような現象はベラルーシ語においても見られる。

- (34) [...] хто мае вочы, той убачыць.  
 who.NOM have.3SG.PRS eye.PL.ACC that.M.SG.NOM look.3SG.PRS  
 「目を持っている者は、見る。」(zviazda.by)

通常、人間には目があって当たり前であるが、(34)ではあえて *мае вочы* という形式が使われている。この場合、しっかりとした視点や視座があるということを指すものと思われる。

- (35) [...] Той, хто мае вушы, почуе.  
 that.M.SG.NOM who.NOM have.3SG.PRS ear.PL.ACC hear.3SG.PRS  
 「耳のあるものは聞くだらう。」(zviazda.by)

人間には耳があるのは当たり前である。そして、例文(35)で出現している *мае вушы* に関しては、理解力や傾聴力のある人を指していると思われる。

身体部位が単独で *мець* の目的語となっているもののうち、実際の所有を表しているものが5例、慣用的表現が3例、そして特別な意味を表す表現が11例あった。

#### 4.3.4 まとめ

本章で行った数量統計を割合にすると、以下の図3の通りになる。

コーパスに基づいた調査の割合を示した図3によると、特に際立っているものが身体部位が単独で *мець* の目的語となって特別な意味を表しているものと、形容詞+身体部位の組み合わせが *мець* の目的語となっているものである。Mazzitelli (2012)の研究では、形容詞などの限定詞がある場合と、限定詞がない場合における差異については言及していない。本論文では限定詞がある場合と、ない場合の違いや、慣用的用法などが存在することを示した。

その他、本論文では限定詞などがつく場合と、つかない場合の頻度数の調査も行っている。形容詞+身体部位の組み合わせが *мець* の目的語となっているものでは、単純な所有を意味する用法が比喩的な用法に比べて多いことが図3からわかる。一方で身体部位が単独で *мець* の目的語となっている場合、単純な所有を意味する用法が、特別な意味を表す用法よりも少ないことがわかる。

Mazzitelli (2012) が指摘しているが、身体部位を目的語にとる表現は、話者によって大きく

孫：ベラルーシ語における HAVE 動詞 мець

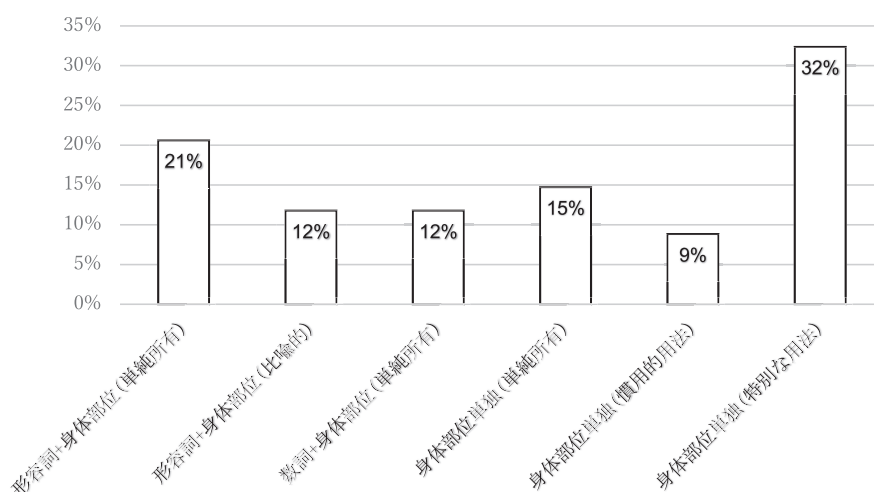


図3 身体部位が мець の目的語となる割合

開きがある。このような開きは、話者の言語環境に左右される可能性がある。この点はコーパスでの調査は難しいため、今後大規模なインタビュー調査を行い、話者の言語環境を明らかにした上での記述が必要となる。

#### 4.4 家畜を表す場合

ここでは、家畜を表す語が мець と共起している状況について、コーパスから判明したことを示し、その分析を行う。

表6 家畜が мець の目的語となっている頻度数

| 日本語       | ベラルーシ語 | 件数(名詞単体)  | 件数(形容詞+名詞) | 件数(数詞+名詞) | 合計        |
|-----------|--------|-----------|------------|-----------|-----------|
| <b>家畜</b> |        |           |            |           |           |
| 犬         | сабака | 5         | 0          | 0         | 5         |
| 牛         | карова | 2         | 0          | 0         | 2         |
| 馬         | конь   | 4         | 0          | 0         | 4         |
| 豚         | свіння | 0         | 0          | 0         | 0         |
| 羊         | авечка | 0         | 0          | 0         | 0         |
| やぎ        | каза   | 0         | 0          | 0         | 0         |
| 猫         | кошка  | 0         | 0          | 0         | 0         |
| 鳥         | птушка | 0         | 0          | 0         | 0         |
| <b>総数</b> |        | <b>11</b> | <b>0</b>   | <b>0</b>  | <b>11</b> |

家畜の類は、HAVE 動詞 мець の目的語になることができるが、属性に次いで確認された例

数が少なかった<sup>11</sup>。猫、豚や羊、やぎに関しては、参照したコーパスにおいて例文が全く見受けられなかった。また、限定詞（形容詞や数詞）がついたものも全く見受けられなかった。なぜ、家畜を表す名詞が *мець* の目的語となる例が少ないのかは、本調査において明らかにすることができなかった。

- (36) [...] *кожны гараджанін, які мае everyone.M.SG.NOM citizen.M.SG.NOM who.M.SG.NOM have.3SG.PRS сабаку, [...]*  
*dog.F.SG.ACC*  
 「犬を飼っている一人一人の市民は…」 (zviazda.by)

- (37) [...] *калі маеш карову. if have.2SG.PRS cow.F.SG.ACC*  
 「もし君が牛を飼っているならば。」 (zviazda.by)

- (38) *Акрамя таго, людзі маюць коней, [...]*  
*besides that.M.SG.GEN person.PL.NOM have.3PL.PRS horse.PL.ACC*  
 「それに、人々は馬を飼っていて…」 (zviazda.by)

なお、動物を飼育（管理）していることを示す語として *трымаць* 「飼育・管理する」という語がある。しかし、Mazzitelli (2012: 91) はこの語を単純な所有動詞ではないと結論付けている。それは、所有の意味のほか、管理や導くといった、所有を超える意味をも含意していることがその理由である。

#### 4.5 属性を所有する場合

ここでは、属性を表す語が *мець* と共起している状況について、コーパスから判明したことを示し、その分析を行う。

Mazzitelli (2012) によれば、属性を表す語（病気や精神状態）に関しては、基本的に HAVE 動詞 *мець* の目的語とはならないとされている。しかし、筆者が行ったコーパスによる調査では、ガン、うつ病といった語が *мець* の目的語となっている例が全部で3例見つかった。ここ

<sup>11</sup> 今回の調査で対象としたコーパスは、そのほとんどの例文が *zviazda.by* というニュースサイトから引用されている。そのため、今後は文学コーパスなどを調査し、例文調査を行うことも課題であると考えている。

ではそのうちの2つを紹介する。

表7 属性が мець の目的語となっている頻度数

| 日本語       | ベラルーシ語   | 件数(名詞単体) | 件数(形容詞+名詞) | 件数(数詞+名詞) | 合計       |
|-----------|----------|----------|------------|-----------|----------|
| <b>属性</b> |          |          |            |           |          |
| インフルエンザ   | грып     | 0        | 0          | 0         | 0        |
| がん        | рак      | 1        | 1          | 0         | 2        |
| うつ病       | дэпрэсія | 1        | 0          | 0         | 1        |
| 不幸        | бяды     | 0        | 0          | 0         | 0        |
| <b>総数</b> |          | <b>2</b> | <b>1</b>   | <b>0</b>  | <b>3</b> |

- (39) Калі пацыентка мае рак малочнай  
 if patient.F.SG.NOM have.3SG.PRS cancer.M.SG.ACC breast.F.SG.GEN  
 залозы, [...] gland.F.SG.GEN  
 「もしも女性患者が乳がんを患っていたら…」 (zviazda.by)

- (40) [...] ў тых, хто мае дэпрэсію, будзе  
 in those.PL.LOC who.NOM have.3SG.PRS depression.F.SG.ACC be.3SG.FUT  
 пагаршэнне стану.  
 deterioration.N.SG.NOM state.M.SG.GEN  
 「うつ病を患っている人の中には、状態の悪化が起こりうる（人もいる）だろう。」  
 (zviazda.by)

一方で, Mazzitelli (2012: 148) で述べられているとおり, 心理社会的な意味を持つ語 (бяды 「不幸」) が мець の目的語となっている例は見受けられなかった。

本章で提示されている例文を見ると, мець の主語となっているのは固有名詞ではなく, 集合的な性質を持つものとして理解することもできるだろう。例文 (39) では, пацыентка 「女性患者」が特定の女性患者を示してはいない<sup>12</sup>。そして, 例文 (40) の文の主語は хто 「誰」であり,

<sup>12</sup> この前の文では以下のことが言及されている。

Тут найперш увага аддаецца лячэнню розных паталогій прадраку, напрыклад, такіх, як фібраадэномы. Такім чынам ствараюцца ўмовы, каб яны не пераходзілі ў злаякасныя новаўтварэнні. Трацічная прафілактыка — папярэджанне рэцыдываў метастазаў.

さらに所有文が関係詞節となっている。

#### 4.6 調査結果の考察

ベラルーシ語の HAVE 動詞 *мець* は、親族名称＞身体部位＞家畜＞属性の順に使用できる可能性が低くなることが、今回のコーパス調査によって判明した。

属性に関しては用例がほとんどなく、僅かにがんとうつ病を表す名詞が *мець* の目的語となっているのみであった。家畜に関しては、犬と牛、馬を表す語が *мець* の目的語となっているものが存在したが、限定詞によって修飾されている例は 1 件もなかった。身体部位では、「形容詞＋名詞」が *мець* の目的語となっている例は、身体部位を表す名詞が単独で使用する例に比べて少ない。しかし、身体部位においては慣用的な表現や特別な意味を表す場合も多く、純粋な所有を表しているものはそのうちの 5 例であった。親族名称では、譲渡可能性の低い祖父や祖母、母や父といった親族名称が *мець* の目的語となることは稀であり、それ以外の親族名称では *мець* の目的語となる例が数多く見受けられた。

### 5. まとめと今後の課題

#### 5.1 まとめ

本論文では、ベラルーシ語の譲渡不可能所有一特に HAVE 動詞 *мець* の用法について、コーパスから採集した例文をもとに分析を行った。従来の先行研究 (Mazzitelli 2012) にて深く考察されることのなかったベラルーシ語の HAVE 動詞 *мець* による譲渡不可能所有について、深く考察することができた。

親族名称は、調査した他の譲渡不可能所有の中で一番割合が高く、その値は 87% であった。筆者が提案した親族分類 (4.2 参照) を導入すると明確な差が出ることが確認された。さらに、親族名称の中でも、子供を意味する *дзіця* と卑属を指す親族名称が *мець* の目的語となることが、他の親族名称よりも多いことがわかった。コーパスによる調査の結果、*мець* と共起することのできる親族名称に階層があることがわかった。それは、卑属＞結婚相手＞兄弟姉妹＞尊属の順に *мець* と共起しにくくなるというものである。

身体部位は、親族名称の次に多かったが、その割合は 9% であった。身体部位が HAVE 動詞 *мець* の目的語となる場合には、単純に特定の身体部位を所有する用法もあるが、そのほかにも

---

「ここではまず、線維腺腫のような前がん病変のさまざまな病理の治療に重点が置かれる。こうして、それらが悪性新生物へと移行しない条件がつくられる。三次予防とは、再発や転移を防ぐことである。」

以上のような文脈から、例文 (41) にて出現する *пацыентка* 「女性患者」は特定の女性患者を指示していないと判断した。

慣用的な用法、身体部位が単独で *мець* の目的語になると、特別な意味合いを帯びることがあることを示した。家畜では犬、牛、馬以外の例はなく、属性に至ってはわずか3例のみであった。このことから、ベラルーシ語の HAVE 動詞 *мець* が共起する可能性（コーパスでの調査による）は、親族名称＞身体部位＞家畜＞属性の順に弱まることがわかった。

ベラルーシ語の所有表現の先行研究である Mazzitelli (2012) では、HAVE 動詞 *мець* がどのような場面において使用できるのか、については調査を行っていたが、使用の程度の問題には踏み込んではいなかった。本論文では、HAVE 動詞 *мець* がどのような場面で使用可能性があるのかについて考察できた。

先行研究の Mazzitelli (2012) では、どのような親族名称が *мець* の目的語となることができているのかについての詳しい調査は行っていなかった。本論文の新規性として、上記の階層を提示できたことであると思われる。

## 5.2 今後の課題

今回はベラルーシ語の HAVE 動詞 *мець* のみの分析にとどまった。しかし、ベラルーシ語には BE 所有構文も存在しており、この構文の所有対象として共起する譲渡不可能所有の仔細な分析は、管見の及ぶ限りなされていない。今後の課題としては、BE 所有構文と共起することのできる譲渡不可能所有をコーパスや母語話者からのアンケート調査によって調査し、ベラルーシ語の2つの所有構文の違いを記述することにある。なお、今回の HAVE 動詞 *мець* の調査では、家畜と属性を表す語彙が目的語となっている例数が少なかった。なぜこれらの語彙が *мець* の目的語とならないのかについては、BE 所有構文との対照や母語話者へのアンケートを実施する必要があるだろう。

また、今回の調査は、主にコーパスの言語データのみを参考にしたが、その言語データを作った話者の属性情報は考慮されていない。特に、ベラルーシ語は周辺のロシア語やポーランド語の影響を強く受けており、話者の言語環境がベラルーシ語の文法に影響を与える可能性がある。

Mazzitelli (2012: 150) によると、ベラルーシ語話者の間には、幼少期からベラルーシ語とロシア語の双方の言語に触れていた話者と、成人期になってからベラルーシ語を身につけた話者との間で、所有表現に対する意識が異なっているという。特に、後者は「よりベラルーシ語らしい」表現を好むといい、過剰修正として HAVE 動詞 *мець* を多用すると指摘している。HAVE 所有を「ベラルーシ的」、一方の BE 所有を「ロシア的」とする対立である。このような対立では、話者は純粋な母語運用能力だけではなく、よりベラルーシ語らしい表現を取捨選択して用いている可能性があるという Mazzitelli (2012: 151) は言及している。

特に、身体部位に関する表現は話者の間でかなり差がある (Mazzitelli 2012: 150)。コーパスのみでは、そのような「個人の意見」に注意を向けることはできない。また、今回の調査ではタラシケヴィチ規範には触れなかったが、ポーランド語との言語接触を踏まえる観点からは、

今後検討が必要である。タラシケヴィチ規範には、少なからぬポーランド語の要素がある。タラシケヴィチ規範を支持している話者が、HAVE 所有と BE 所有のどちらを選択するかについては、未だ答えが出ていない問題である。

## 謝辞

本論文を作成するにあたり、指導教員である菅井健太先生に多大なご支援・ご助言を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

(そん たくみ・言語科学研究室)

## 参考文献

- Danylenko, A. (2009). The East Slavic 'HAVE': between the *be*- and *have*- patterning? Available at: [https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/pdf\\_seminar/20090619Danylenko.pdf](https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/pdf_seminar/20090619Danylenko.pdf) (最終閲覧日 2025 年 7 月 31 日)
- Heine, B. (1997). *Possession: cognitive sources, forces, and grammaticalization*. Cambridge; New York: Cambridge University Press.
- Isačenko, A. (1974) On 'have' and 'be' languages (a typological sketch). In Michael S. Flier (Eds.), *Slavic Forum: Essay in Linguistics and Literature* (pp.43-77). Paris: The Hague / Mouton.
- Langacker, W. (1995). Possession and possessive construction. In J. R. Taylor & R. E. MacLaury. (Eds.), *Trends in Linguistics. Studies and Monographs* 82 (pp. 51- 79), Berlin: Mouton De Gruyter.
- Mazzitelli, F. (2012). *The expression of Predicative Possession in Belarusian and Lithuanian*. Tesi di Dottorato: Università degli Studi di Roma "La Sapienza".
- Mrázek, R. (1973). Funkční distribuce habere a esse v slovenské větě. *Československé přednášky pro VII. Mezinárodní sjezd slavistů ve Varšavě*. Praha: Akademia.
- Nichols, J. (1988). On alienable and inalienable possession. In Shipley W. (Eds.), *In Honor of Mary Haas: from the Haas Festival Conference on Native American Linguistics* (pp. 557-609), Berlin; New York: Mouton De Gruyter.
- Stassen, L. (2009). *Predicative Possession*. Oxford: Oxford University Press.

\*\*\*

- Мразек 1990 — Р. Мразек. Сравнительный синтаксис славянских литературных языков : исходные структуры простого предложения. Vyd. 1. Brno.: Univerzita J.E. Purkyně, 1990.
- Кравицкий et. al 1990 — А. А. Кравицкий, А. Е. Михневич, А. И. Подлужный. Белорусский язык для говорящих по-русски. Минск.: Вышэйшая школа, 1990.
- Кравицкий et. al 1994 — Кравицкий А. А., Подлужный А. И. Учебник Белорусского языка для самообразования. Минск.: Вышэйшая школа, 1994.

\*\*\*

- 清沢紫織 (2012). 「なぜベラルーシ語は危機言語なのか」『スラヴィアーナ=Slaviana』, 4, 69-89.
- (2021). 「現代ベラルーシ語の標準語規範の分裂と対立」『スラヴ研究』, 68, 1-43.
- 田中春葉 (2024). 『BE 型言語である現代ロシア語における HAVE 型動詞 иметь の使用範囲』東京外国語大学総合国際学研究院修士論文 (未刊行)
- 角田太作 (2009). 『世界の言語と日本語』くろしお出版
- 森田耕司 (2022). 「ポーランド語における所有・存在表現」『語学研究所論集』27, 149-159.